

学内広報

2018.11.26

no.1516



女子中高生向けプログラム「チョコレート・サイエンス」in「未来をのぞこう!」より(10月27日)



物性犬やごらくー
も大活躍!

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

柏キャンパス一般公開に行ってみた

日本の大学として初の 統合報告書、出来

15の部局が競演する年に一度の祭典を体感レポート

柏キャンパス一般公開、

T●では印象的だった企画を語ってごう。

1は図書館入口へと誘う素敵な階段だ。

A●えーと、ただの階段ですよ。

T●違う！このガムテープの矢印は「ぜひ来てネ」という図書館ジュニアスタッフの気持ちの表れさ。UTKはUniversity of Tokyo Kashiwa campusの略。柏への愛と誇りを感じたね。館内には、自分が読んで刺激を受けた本を紹介するパネル展示「東大生の本棚」が、『素数ゼミの謎』『ゾウの時間 ネズミの時間』と科学分野の本もあれば、昨年度まで駒場にいた野矢茂樹先生の『哲学の謎』やアランの『幸福論』なんかもあって、興味深かった！

海の宝に夢中な子供たち

A●私は1階にあったスタンプラリーの用紙がハリボタみたいで好きでした。

T●続いて、2は無数のちりめんじゃこから別の生物を探すゲームね。エビやカニは低得点で激レアのフィロソーマ幼生は高得点。没頭するキッズが続出！

A●3は手裏剣？ ハンドスピナー？

T●これは、水槽の水を回してできるうず。回す速さによって○になったり△になったり□になったりするなんて……興奮！

4は磯の生物に触れる人気企画。俺はナマコに逡巡したけど、写真の少年は大海研の関係者で、お手のものだった（尊敬）。

A●5は何ですか？ 白いミミズ？

T●卵から蛹まで、カイコの成長の軌跡を一覧する展示。脱皮の回数で成長の度合いを表すんだって。6は、恒例のメダカすくい企画でお客様の相談を受けていた尾田正二先生。メダカの求愛行動を解説する一方、本当の「おいしさ」についても語ってくれた。素敵な笑顔！7は黄緑ベストの斎藤馨先生が20年以上続けている研究の装置「サウンドコクーン」だ。各地の森のライブ音をカプセル内で聴いていると心がしみじみしてきたよ。

A●8は「ウォーリーをさがせ！」みたい。

T●斎藤先生の下でマンガによる環境学教育に取り組む内田竜嗣さん（博士課程）の作品。高知新聞社主催の第29回黒潮マンガ大賞受賞者だ！斎藤先生のほか、研究室から旅立つ仲間を何人も描きこんでいて……「最高かよ！」。9はシカの頭

柏図書館
東大生の本棚2018など



1
新領域環境系
サイバーフォレスト



7
新領域環境系
骨にさわってみよう



9
新領域基盤系
ソフトマテリアルの世界を
体感しよう



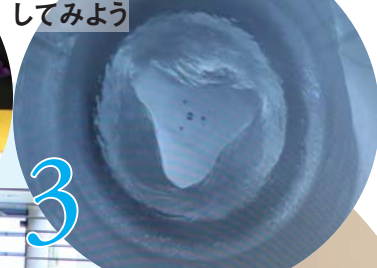
10
新領域基盤系
触覚の不思議な体験



大気海洋研究所
ちりめんウオッチ



大気海洋研究所
大気の流れの不思議を実験
してみよう



8
新領域環境系
サイトをさがせ!



千葉県
チーバくん

情報基盤センター
三次元可視化システム体験



行ってみた

10月26~27日に行われた柏キャンパス一般公開2018。本部広報課のT(51歳♂6年目)とA(23歳♀1年目)が会場にお邪魔し、全15部局の企画を拝見させていただきました。170超の企画全部に触れるのは無理ですが、各々が遭遇して「いいね」をつけたくなったものについて、感想成分まじまじの会話風原稿で紹介します。



の骨。縫合線というらしいんだけど、この模様、妙にかっこいいよね！
A●私のおすすめは**11**の新領域基盤棟の壁。サイファイっぽくてクールです。
T●サイファイ？ハイサイおじさんのな？
A●Science Fiction、知らないんですか？
T●SFってエスエフじゃないんだ……。
A●**10**はソフトマテリアルへの入口として、洗濯糊とホウ砂を使ってスライムを作るコーナー。私は緑のスライムを作って持ち帰り、むにむにしています。**12**は触れてないのに触った感じがする不思議な鍵盤。仕組みは想像できませんでした。**13**は3Dゴーグルをつけてビルの風の軌跡を見る企画。情報基盤センターにはOakforest-PACSというスパコンの世界一のトロフィーもありました。柏の森です。
T●**14**は実験などで火が出たときに濡れタオルをかぶせて消す実演。炎が上がってウオットと思ったけどプロは冷静だった。
A●**15**はレーザーで空中に絵を描く企画でもらった写真です。ハートを描いてみました。**16**はスパコンの見学。冷却のため、部屋自体涼しかったです。ドアが開いたので入れるかと思ったら違いました。

鉱物の擬人化カードたち

17は鉱物を擬人化したオリジナルのカードで、ガチャガチャでもらえました。産出する国が割り振られていて、日本は翡翠、私が育ったイギリスはダイヤモンド。その特殊能力は「永遠の輝き」でした。
T●昔やってたデビアスのCM……。
A●私、物性研のスタンプラリーは全クリして賞品をもらいました。元素表と物性犬の絵を描えるルービックキューブ。
T●物性犬、随所で大活躍だね。チーバくんの隣のカシワニは今回初参加だった！
A●こんなにゆるキャラが好きなのは日本人ぐらいかも……。**18**は世界各国から来た留学生によるお国紹介ブースにいた中国のサンさんです。民族音楽やダンスの実演もあって、お酒を飲みながら観たかったですね。(次頁の)**19**は見学ツアーで入った藤原ホール。研究所とは思えないお洒落感でした。日本は蛍光灯の白い照明が多いけど、ここは照明が暖色で素敵でしたよ。図書室では本の落下防止柵

カブリ数物連携宇宙研究機構
研究棟見学ツアー



19

宇宙線研究所
霧箱で見る宇宙からのメッセージ



22

宇宙線研究所
VRで神岡鉱山を探検しよう



23

東京大学文書館
記録で読みとく「東大紛争」



25

カブリ数物連携宇宙研究機構
シャボン玉で数学世界



20

高齢社会総合研究機構
ゲームで記憶力チェック



21

宇宙線研究所
スーパーカミオカンデのジグソーパズルに挑戦



24

空間情報科学センター
空間情報の可視化



26



27

生産技術研究所千葉実験所
自動運転バス走行



28

同時開催イベント 未来をのぞこう!
チョコレート・サイエンス



29



30

来年も柏キャンパスで
お待ちしております!

が地震の揺れに応じて自動的に出てくる仕組みで、驚きました。20はいろいろな図形でシャボン玉を作るコーナーです。

T●IPMUといえば、特別講演会に登壇した野村泰紀先生の話が情熱的で、マルチバース宇宙論は難解なのにグッときました! 21は機構考案の記憶力を試すゲームに苦心する15歳の少女たち。「サイモン」っていう電子ゲームを思い出したよ。ブースには無料の飲み物や椅子を用意しており、見学に疲れた多くのお年寄りが憩っていた。さすがは高齢社会を熟知する機構! A●22は霧が漂う箱を通過する宇宙線の軌跡を見る企画。係の方が熱心に解説してくれたのに私にはよくわからず恐縮です。23は神岡鉱山の模型ですが、なぜかプーさんの人形が置いてありました。

スーパーカミオカンディ!

T●24は屋外テントで売っていた「スーパーカミオカンディ」。な、なんと「乳トリノ味!」ピースを増やし500ピースになったスーパーカミオカンデジグソーに挑戦したけど、5分で挫折したよ。あと、アンケートに答えると「ダークマルター」や「ガンマ先ばい」などの缶バッジがもらえたんだけど、バッジの箱が鳩サプレーの缶だったのがよかった。中の人を身近に感じたね。25は「改革フォーラム」という1969年刊の媒体で、本誌の兄弟的存在だったそう。担当して6年目なのに初見だった……。26は人の活動や交通活動を時系列で模擬表示する展示。ちょっとした神気分に。27はスマホのGPSデータを使うスタンプラリーを説明してくれた台湾出身の陳柏嘉さん(柴崎研究室/修士課程)。好きなアニメは「ぐらんぶる」。A●28は路肩から5cmの距離に停車できるという自動運転バス。車内のモニターでハンドルの動きや車外の路肩が近づく様子も確認できて楽しかったです。

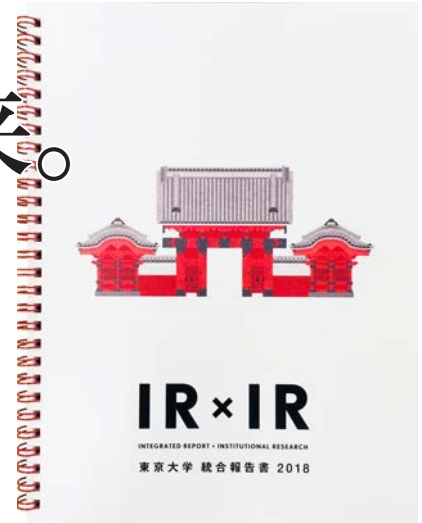
T●29は同時開催の女子中高生向けイベント「未来をのぞこう!」から、物性研「チョコレート・サイエンス」の一コマ。結晶の形に左右されるチョコのおいしさ・まずさをクッキングしながら実感する、森初果所長も参加の入魂プログラム。女の子だらけの室内に広がる甘い香りに包まれながら、サポート役の院生が引込み思案な子を優しく導く姿を目の当たりにして、きっとあの子らは物性科学に目覚めるぞ、と思えたよ。30は帰りのバスに並ぶお客さんたちに名刺を配り感謝の念を伝えていたごろくろー。いい仕事! A●河童コスプレの職員さん……。T●公認マスコットなんだったば!

Integrated Report × Institutional Research

日本の大学として初の統合報告書、出来。

10月20日、4回目となる東京大学定期株主総会が工学部2号館で開催され、世界の大学としては8例目、日本の大学としては初となる統合報告書がお披露目されました。これまで「FINANCIAL REPORT」として公表してきた財務情報と、研究・教育・社会連携などの非財務情報を組み合わせ、東大の実態をより深く伝えようとする試み

です。総会では、2017年度の決算報告の後、本学の教職員に学外の専門家を合わせた7人によるパネルディスカッションを実施。「大学の価値を伝えるのに必要な統合思考とは何か」について、90分間にわたって議論を繰り広げました。発言の数々を眺めてからこの統合報告書を読めば、東大のことがよりくっきりと見えてくるはず！



パネルディスカッション 発言ダイジェスト

- 4 統合報告書は組織が持続的に価値創造していくための有用なツールとなる。
- 4 情報開示をしない組織など時代遅れ。そんな組織に存在意味はない、と思うべき。
- 3 「未来志向」は、様々なステークホルダーとの対話なくしてはありえない。
- 3 人材輩出を通じての社会課題の解決という方法を取れるのが大学の特長だ。
- 7 大学の活動を財務報告で伝えるには限界がある。だからこそ統合報告書が必要。
- 1 統合報告書は、教育・研究活動を網羅的に知っているわけではない教員にも有用なツール。
- 6 大学が生み出しているものには単純に金銭で測れないものが多い。
- 6 大学がやりたいことと大学がやるべきこととを常にすり合わせていくことが重要。
- 1 大学が未来を見通す「目利き力」を持ち、社会と共有できる理念を発信することが重要。
- 5 研究を通して、知っていることが増えるだけでなく、社会に役立つ知恵も得られることを伝えたい。
- 2 統合報告書を通して、社会の皆さんに染み付いた東大の過去のイメージを変えたい。
- 2 教育活動は成果が出るのに時間がかかり、短期的な成果を報告するのは難しい。

1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 
岩田忠久 総長補佐 統合報告書製作委員	太田邦史 総長特任補佐 IRデータ室副室長	小山博史 総長特任補佐 IRデータ室副室長	安藤聡さん オムロン株式会社 取締役	有馬孝尚 総長特任補佐 IRデータ室副室長	大日向隆 総長特任補佐 IRデータ室副室長	平野浩之 副理事・財務部長

ポジティブな情報もネガティブな情報も広く発信していくことが本当に重要。⁴

大学がまず社会に対して率直に夢を語れば、支援は自ずとついてくるのではないか。¹

東大がいかに困っているかを社会に知ってもらうことが重要。³

統合報告書にオープンイノベーションのページがあることが企業には大きな意味を持つ。⁴

財務情報は過去から現在を語る。非財務情報は現在から未来を語る。⁴

統合報告書は組織のゴールではなくスタートを伝えるもの。⁶

財務情報と非財務情報をどのように結びつけて示すかは次回以降の大きなテーマ。⁵

カタカナや難しい言葉がまだ多いのは今回の統合報告書の反省点の一つだ。¹

株主総会の冒頭には総長が登場し、「東京大学「社長」の五神です」と挨拶。統合報告書の説明、公式動画「UTokyo / Society」の上映の後、IIRC（国際統合報告評議会）の委員を務めた経験ももつ安藤聡さんが、「統合思考による価値創造」と題した基調講演を行いました。さらに、今回は会場入口でUTCCによるワイン等の試飲&即売もあり、辛党の「株主」を喜ばせました。

教養教育の現場から

第30回

リベラル・アーツの風

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学のすべての構成員が知っておくべき教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

組織の全員が発揮すべきリーダーシップを考える

／全学自由研究ゼミナール「アクティブラーニングで学ぶリーダーシップ」

お話／アクティブラーニング部門
特任助教

伊勢坊綾



リーダーと期待される東大生へ

——リーダー養成の授業でしようか。

「私は、民間企業での就業経験を背景に、企業における人的資源管理の研究を進めてきました。4月の着任を機に、自分のリソースを活用した授業の設計を検討し、入学前も入学後も卒業後もリーダーになる機会が多いであろう東大生に、アクティブラーニング(AL)を通して「リーダーシップ」を学んでもらうのはどうかと考えました。リーダー養成の授業というより、リーダーシップを発揮できるよう、自身のリーダーシップについての考えを深めてもらう授業を目指しています」

——みんながリーダーを目指したら組織は取捨がつかなくなりませんか？

「全員を力強く牽引するようなリーダー像だとそうかもしれませんが、リーダーには様々なタイプがあります。構成員の特性を活かす業務の割り振りで組織を動かしたり、隠れた問題点をいち早く見つけて組織を改善したり、新しい発想やビジネスモデルを打ち出したり……と、時代や状況によって求められるリーダーシ

ップは変わります。リーダーシップの多様性を知ってほしいと思いました」

「学生に聞くと、高校の生徒会長時代にトラウマになる失敗をした、学園祭でメンバーを動かせなかった、主将として運動部をまとめられなかったなど、リーダーとして失敗を経験した人が多かったです。一方で、バイト先の塾でリーダー役を務めるヒントがほしいという人や、リーダー経験はないという人もいました」

——授業の進め方を教えてください。

「たとえば、特性理論、行動理論、条件適合理論など、経営学で培われてきたリーダーシップの主要理論を私が解説し、関係する課題をグループごとに学生たちに行ってもらおうという流れで進めます。特徴は、学生の質問を促すWebサービスである「Slido」を活用し、学生の質問や、教員の質問に対する学生の回答をスマホやPC経由で集計し、リアルタイムで教室のスクリーンに表示すること。たとえば理論の解説をしている最中に、「その展開は飛躍では？」とか「理論を裏付ける論文は？」といったコメントが書き込まれ、それを見た他の学生が「い

いね」をつけたりします。全部には答えられません、「いいね」が多い質問は学生にとって重要であることが多く、こちらら勉強になります」

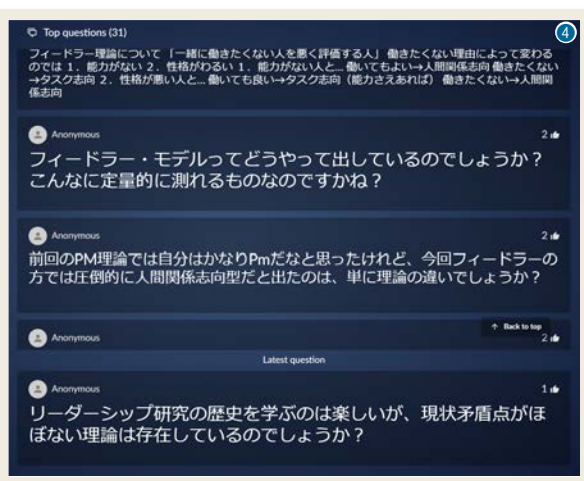
質問欲を刺激するWebサービス

——授業中にわざわざ手を挙げて質問するのは、結構気が引けますもんね

「そういう遠慮をすることなく質問ができるシステムです。事前に想定していた質問が書きこまれ、次に説明する理論に答が含まれる場合などは「よし!」と思えますが、想定外の質問が書かれることもあります。たとえば、リーダーの業績志向と人間関係志向の解説の際には、両者が両立するとは考えられないか、というコメントがきました。リーダーシップ論では2軸で議論を進めることがあり、前提を覆すような発言ではありませんが、それだけに本質的なことを言ってくれたと感心しました。即時対応が必要で講義形式より大変ですが、着眼自体が新奇であるような質問が出て、研究のヒントももらえています。未経験の先生方にもぜひ使ってみてほしいですね。」



①AL部門ロゴ。②ALに最適な教室 KALS。前後左右の4スクリーンに別々の画面を表示可。③「Slido」(<https://www.sli.do>)のトップ画面と、④授業で使った際の画面の一部。書き込みは匿名でもOK。⑤師と仰ぐ中原淳先生が編んだ『人材開発研究大全』(東大出版会)。伊勢坊先生は「役員秘書の経験学習」を寄稿。



総長室だより

第16回

～ 思いを伝える生声コラム ～

東京大学第30代総長

五神 真



知のバトンゾーンとしての図書館(後編)

総合図書館別館のライブラリープラザでのリレートークの話の続きです。学生時代の図書館の思い出の話をする中で、それぞれの駒場時代に話が及びました。将来の夢を迷いながら求めていた時期です。最終的には物理学科に進みましたが、数学や建築、あるいはエンジニアになるかなど、様々な可能性を模索しながら駒場時代を過ごしました。トークでは、今も鮮明に記憶している、駒場の大教室での哲学概論の講義の話になりました。実は、その講義で熊野純彦附属図書館長と私が同じ講義室にいた可能性が高いこともわかりました。

講義の合間に、図書館で、書架に並んでいる本を背表紙をたよりに何気なく取り出して読むということを楽しんでいました。あるとき取り出した本の中で、結晶成長の速度を理論的に予測することは大変難しいという記述を見つけました。飽和溶液から結晶の核が生まれ、それが結晶へと成長するプロセスについて、どのぐらいの速さで成長するかということを実験することは最先端の物理学でも極めて難しく、計算結果が実験事実とまるで合わない、というのです。この記述を見つけたことが、私が固体物理学に興味を持ったきっかけとなりました。図書館が、時代や分野を超えた知との遭遇を可能にするということの実体験です。

今、資料のデジタル化が進み、最先端の研究の現場において、必要な学術情報はほとんどオンラインで手にすることが出来ます。私自身、この20年ぐらいは図書館に行く機会がめっきり減りました。しかし、研究を進めていると、すこし違った視点をもつことが重要になることがあります。そのような時に、先人が死にもぐらうで守ってきた書籍に触れ、ちょっとわき道にそれてみることも重要なことです。思いがけない出会いをする場として、書籍を集積する図書館は現代においても大変貴重なのです。

ライブラリープラザは会話もしながらインタラクティブに学び、知を共に生み出すという新しい機能を持った空間です。これは、東大が培ってきたこれまでの知と新たな知の出会いを意識的に生み出すための場とも言えます。それは、紙媒体を中心に人類が培ってきた知の文化をデジタル時代に着実に受け渡すための「バトンゾーン」とも言えるかもしれません。是非ライブラリープラザを大いに活用しましょう。



トークセッションの様子(10月2日)

シリーズ 第17回 連携研究機構

モビリティ・イノベーション
連携研究機構

の巻



話／機構長
須田義大 先生

自動運転等のモビリティ改革を推進

——発足の経緯と機構の概要を教えてください。

「自動運転を中心に革新的なモビリティ研究を進めるための組織です。柏キャンパスに拠点を構える生産技術研究所、新領域創成科学研究科、空間情報科学研究所の3部局が連携して今年7月に発足しました」
「私は、生産技術研究所の次世代モビリティ研究センターで、産官学連携型のモビリティ研究を10年以上進めてきました。近年になって、CASE (Connected, Autonomous, Shared, Electric) という言葉で表されるような「モビリティ革命」の機運が高まっています。この流れを捉え、モビリティ研究を深めながら広げるには、部局横断型の機構が必要だと考えたんです。西千葉にあった千葉実験所が移転して大規模な実験フィールドが柏にできたこと、自動運転に関する内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) に採択されたことも、機構発足へと至る背景にありました」

——自動運転はそんなに需要が大きいのですか。

「はい。物流を担うトラックでも公共交通を支えるバスでも、運転手不足は全国的に深刻ですし、過疎の地域で高齢者の移動手段を確保できないことはコミュニティ維持にとって致命的な大問題です。総長が春の大学院入学式辞で示唆されたように、自動運転は知識集約型社会への転換を促す技術の一つだと思います」

——現在、自動運転の実現度はどのくらいですか。

「システムが運転手をサポートする運転支援から、場所の限定なくシステムが全てを操作する完全自動運転まで、自動運転のレベルは5段階に設定されています。先述のSIPでは、2020年までに特定の場所でシステムが全てを操作するレベル4を実現することが目標。実証実験を進め、地域社会に実装する上で、ITS[※]実証実験モデル都市でありITS推進協議会を擁する柏に機構があるのは大きな利点です。たとえば、柏の葉キャンパス駅から柏キャンパスへのシャトルバスを自動運転で運行する試みは近い将来ぜひ実現したいですね」

——運転の楽しみがなくなると残念な気もします。

「操る楽しみを備えるパーソナルモビリティの開発、運転時の脳の活性化を調べる研究などはすでに始めていますが、人が運転しないのが幸せな社会なのかという点も今後研究テーマになるでしょう。機構の英語略称UTmoblのIにはInnovationの意味をこめました。今後は連携の輪を文系にも広げ、モビリティ研究からイノベーションを起こしたいと思います」



UTmoblのロゴ

www.its.iis.u-tokyo.ac.jp/utmobl/ja/

※Intelligent Transport Systems

ワタシのオシゴト 第151回

RELAY COLUMN

アイソトープ総合センター
事務室会計係 専門職員 増子和子

いつも前向きで、感謝を忘れずに☀



アイソトープ総合センターの女性専用室前。

浅野地区にあるアイソトープ総合センターで、外部資金の受入・執行・報告など会計全般や予算を担当しています。私が異動してきた頃と比べて外部資金が約3倍にも膨らんでしまい、

とても頼りになる吉田涼子さんと一緒にがんばっています。

また、男女共同参画連絡担当者（事務）にもなり、女性専用室（スタッフルーム）の設置に少しでもお手伝い出来たことはとてもうれしかったです(^_^)

日常生活では、8歳と4歳の男の子の母親で、毎日下の子の保育園への送り迎えをし、行事にも参加して忙しい毎日を過ごしています。もし、少しでも自分の時間があつたなら、日頃私の足が痛い思いをさせられている息子たちがらくたおもちゃをエイヤーと捨てて、部屋をきれいにし、ゆっくり休みたいのが目下の私の野望です。片付けては散らかすというイタチごっこに終止符を付けられるのはいつのことでしょうか？

トホホ……。



酒井さんの送別会にて事務の女性たちと。

得意ワザ：素早い判断で仕事に時間をかけない！

自分の性格：常に疑問を持って真実を追求する合理主義者

次回執筆者のご指名：中濱拓郎さん

次回執筆者との関係：医学部時代の頼りになる後輩

次回執筆者の紹介：仕事もジムも何でも楽しむ人♪

IRデータ室
よもやま話 第10回

本部IRデータ課 工藤悠生



データは教育・学生支援に役立つか？

私は、本学の教育・学生支援に関するデータの集計・分析をしています。とはいえ、まだまだ勉強不足で、日頃から教育・学生支援部のみならず、様々な方にお話を伺いつつ本学の実情の理解に努めています。

IRデータ室は学生を指導したり、教育したりすることはありません。では、データ分析は教育・学生支援の役には立たないのでしょうか？ 私は、今こそデータ分析が役に立つときだと感じます。

今の日本では、少なくとも制度上は、みな何らかの形で学校教育をうけ、社会に出ることになっています。多くの人が教育とかかわり、多様な「体験談」をもっているのです。一方で、グローバル化、少子化など、大学をとりまく環境は目まぐるしく変化し、大学の在り方に影響を与えています。「私のときは…」 「私の子どものときは…」 という個人の体験談は、今の大学教育全体を理解するうえで、足かせとなる恐れもあるように思うのです。

「実体験が、かえって現状を理解する妨げになりうる」ことは、本学教職員も他人事とはいきれないと思います。私は以前、本部学生支援課で日々、学生と接していました。なかには1年、2年とかかわる学生もあり、彼／彼女らの卒業時には、立派に成長したものだと思いきや、嬉しく思い、学生にとって課外活動は重要だと感じたものでした。ただ学部学生だけでも1万人以上が在籍している本学の状況を踏まえると、課外活動に打ち込み立派に成長した彼／彼女らは、ごくごく限られた例であることもまた事実なのです。私は本学の課外活動を広く知ったような気でいましたが、それは本当か疑わしい、といえなくもないのです。同様のことは学内のあちこちで起きるのではないのでしょうか。

だから今こそ、データの出番なのです。データが蓄積されていけば（実際にはこれが難問である場合も少なくないのですが）、本学の学部学生のうち課外活動に取り組んでいる学生がどれくらいいるのか、どれくらい課外活動に打ち込んでいるのかわかります。これにより、目の前の学生がどんな存在なのかを知ることができるのです。彼／彼女らにどんなサポートができるのか、どんな助言をするのが適切かと考える助けにもなります。

とはいえ、現実をそのまま写し取ったデータ、というのはなかなかありません。誤ったメッセージを伝えようと思えば、わざとそうすることもできてしまう危うさもあります。IRデータ室はこうした点に留意し、その方が知りたい観点にあわせてデータを用意します。データ分析が本学の教育・学生支援のますますの発展に貢献できるよう、努力を続けていきます。

インタープリターズ・第136回 バイブル

教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門
特任講師

内田麻理香

みんなの専門知

オランダのアムステルダム国立美術館には、レンブラントの『夜警』が所蔵されている(写真)。先日、その『夜警』を修復する過程を公開するというニュースがあった。しかも、全世界に向けてライブ配信もするという。美術館の顔とも言える名画であるが、その修復過程も展示物にするとは興味深い。



アムステルダム国立美術館は、改修の際に10年も閉館を余儀なくされた経緯がある。その騒動が、『みんなのアムステルダム国立美術館』として映画化された。『夜警』の修復の公開といい、このトラブルの映画化といい。前向きというか、逆転の発想というか、様々な意味で「たくましい」美術館である。

この美術館の改修が長引いたのは、オランダ人のアイデンティティである自転車のためだ。美術館の中央には自転車で通れる道があるが、改修後はその道が狭くなることを知った市民たちが反対の声を上げた。それを知った美術館側は、市民との話し合いの場を設ける。アムステルダム市民は議論好きというが、それは本当らしい。館長だろうが市民だろうが、納得しない限り黙らない。そして、皆がようやく折り合いのつく設計に至るまで、10年も費やすことになった。

この美術館の改修が長引いたのは、オランダ人のアイデンティティである自転車のためだ。美術館の中央には自転車で通れる道があるが、改修後はその道が狭くなることを知った市民たちが反対の声を上げた。それを知った美術館側は、市民との話し合いの場を設ける。アムステルダム市民は議論好きというが、それは本当らしい。館長だろうが市民だろうが、納得しない限り黙らない。そして、皆がようやく折り合いのつく設計に至るまで、10年も費やすことになった。

映画で専門家と専門家でない人々が議論し続ける様を見て、これは見事な「美術コミュニケーション」だと感心してしまった。館長は市民に対して「民主主義の悪用」と不平を言い、市民は「自転車で美術館を通るのは、この街の文化」と主張する。疲労困憊した関係者たちは、たまったものではなかっただろう。しかし、美術館の学芸員、建築家、政治家、市民みんなが話し合っただけでできた美術館は、まさに映画のタイトル通り「みんなのアムステルダム国立美術館」になった。

この場合は、専門家と非専門家間のオープンな議論を通じて、結果的にみんなが誇る美術館の完成に至った。しかし、他の専門知の場合はどうであろうか。例えば、自分の専門で「みんなの○○」に置きかえると、そもそも「みんなの○○」とは何を指すか？ それを目指すべきなのか？ 目指そうとする場合、誰が、どの程度かわるべきなのか？ 考慮すべき課題は多い。容易には答えが出ない問題だが、このように専門家だけで閉じた専門知のあり方を探り続けるのが、科学技術インタープリターの役割だと考える。

科学技術インタープリター養成プログラム

あちこちそちこち 東京大学 第23回

本郷・駒場・柏以外の本学を現場の教職員が紹介

農学生命科学研究科附属演習林
秩父演習林の巻



助教
鈴木智之

7演習林中もっとも急峻な秩父の森



秩父の代表的植生であるブナ林の紅葉。

埼玉県秩父市にある秩父演習林は、大学院農学生命科学研究科の附属演習林に属する地方演習林のひとつで、森林に関する教育研究を行う施設です。2016年に設立100周年を迎えました。教員・技術職員・事務職員・非正規職員合わせて20名ほどの職員が働いています。職員が主に出勤する事務所は、西武線の西武秩父駅(池袋駅から特急で1時間20分)から歩いて5分ほどのところにあり、附属施設のなかでは東京からのアクセスが比較的良好な場所にあります。演習林の「本体」である森林は、事務所から30分~1時間ほど車で移動したところにあり、約6,000haという山手線の内側とほぼ同じ面積の森林が、埼玉県のほぼ西の端、荒川の源流域となる山梨県や長野県との県境近くの山岳地帯に広がっています。この森林の近くにも職員が勤務する作業所があります。広大で、急峻な山岳地帯であるため、車で行けない範囲も多く、歩いていくだけでも半日かかる場所も多くあります。そんな秩父演習林の職員の足腰は東大一強靱と言えるかもしれません。一方で、その広大さと標高600~2000mという標高幅のために、非常に多様な動植物が演習林内に生息しています。秩父演習林では、そのような豊かな森林生態系の特徴を活かした教育研究活動を行うとともに、東大内外の研究者・学生に研究の場を提供しています。

東大職員向けの特別ガイドも定期的に行っていますので、春には新緑、秋には紅葉がきれいな秩父演習林にぜひ一度お越しください。



1. 秩父事務所。
2. 栃本作業所。
3. 森林の樹木調査。
4. 急峻な斜面を登るモノレール。

www.ufa.u-tokyo.ac.jp/chichibu/

トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features,Articles)に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署	タイトル
10月12日	宇宙線研究所	チェレンコフ・テレスコープ・アレイ (CTA) 大口径望遠鏡1号基 完成記念式典を開催、試験運転を開始
10月16日 ～11月6日	本部広報課	病院と研究科が一体となって進む動物医療と研究と教育／ペットの声を聴く行動診療で人と動物をよりなやかに／口語自由詩の地平を拓いた詩人 萩原朔太郎の猫は……／猫ブームの理由 飼い主との間にある独特な関係性とは？ 広報誌「淡青」37号より
10月17日	本部社会連携推進課	平成30年度「東京大学稷門賞」授賞式が挙行される
10月17日	広報戦略本部／工学系研究科・工学部	廃墟を守る 軍艦島のコンクリート建築に魅せられる理由
10月18日	教育学研究科・教育学部	教育学部附属中等教育学校で銀杏祭開催される
10月24日	グローバルキャンパス推進本部	2018年度冬学期「留学生と外国人研究者のための地震・防災セミナー」開催報告
10月26日	本部IRデータ課	「IR×IR 東京大学統合報告書2018」を発行しました
10月26日	本部学生支援課	本学の学生が逮捕・起訴された事件について
10月29日	本部学生支援課	ヨット部クルーザー一班が世界大会に出場！！
10月30日	グローバルキャンパス推進本部／本部国際戦略課	MIRAIセミナー2018開催報告
10月30日	生産技術研究所	生研英文広報誌「UTokyo-IIS Bulletin」Vol.2を公開しました
10月31日	本部学生支援課	ブリティッシュ・コロンビア大学と野球国際親善試合を開催しました
11月1日	本部広報課	知のバトンゾーンとしての図書館（前編） 総長室だより 第15回
11月2日	柏地区共通事務センター	柏キャンパス一般公開2018を開催
11月2日	学生相談支援課	RAINBOW CROSSING TOKYO 2018 開催報告
11月2日	本部環境安全課	平成30年度 本部防災訓練実施される
11月2日	教育学研究科・教育学部	長野県木島平村との交流についての報告
11月5日	高大接続研究開発センター	高校生・受験生向け情報発信ウェブサイト「キミの東大」を正式オープン
11月6日	本部広報課	広報センター年末年始休館のお知らせ
11月6日	医科学研究所	ゲノム編集による動物受精卵の遺伝子組み換え・遺伝子治療の簡便化に成功
11月7日	本部入試課	平成30年11月試行調査東京大学教養学部試験場建物配置図



CLOSE UP RAINBOW CROSSING TOKYO 2018を後援 (本部学生相談支援課)



会場（御殿下記念館）の様子。
⇒ <http://lgbtcareer.org/rainbowcrossing/>

RAINBOW CROSSING TOKYO 2018 が、10月21日に大講堂（安田講堂）と御殿下記念館で実施されました。LGBTやダイバーシティに取り組む企業と共に、「自分らしくはたらく」について考える企画（主催/認定NPO法人ReBit、後援/厚生労働省、東京都、文京区、日本経済団体連合会、日本労働組合総連合会、全国中小企業団体中央会、東京大学）です。第1部の冒頭、本学の石井理事・副学長が後援挨拶を行いました。続いて各後援機関挨拶の後、国際労働機関（ILO）

駐日事務所駐日代表 田口昌子氏のスピーチ、Rebit代表理事 薬師実芳氏の調査報告「性的マイノリティの就職活動における経験と就労支援の現状」、当事者、支援に取り組む企業関係者によるパネルトークを行い、約500名が参加しました。第2部では、協賛企業21社の取り組みを知るブース、ポスターセッション、対話ブースのほか、スーツフィッティングやメイク相談なども実施されました。のべ約800名の参加があり、熱心な意見交換がありました。

本年の文化勲章受章・文化功労者顕彰について (広報室)

金子宏 名誉教授（法学政治学研究所）が、本年の文化勲章を受章されました。また、江頭憲治郎 名誉教授（法学政治学研究所）、塩川徹也 名誉教授（人文社会系研究科）、

宇井理生 名誉教授（薬学系研究科）が、文化功労者として顕彰されました。おめでとうございます。受章・顕彰の栄誉に輝いた先生方のご功績を、ご本人のことをよく

知る先生が800字程度で紹介する記事については、全学ホームページのUTokyo FOCUSからご覧ください。



CLOSE UP 平成30年度本部防災訓練を実施

(本部環境安全課)



安田講堂前の避難の様子。

10月24日、平成30年度本部防災訓練を実施しました。昼休みに震度6強の首都直下型地震が発生したという想定のもと、五神真総長をはじめとする本部教職員が一次避難場所へ避難し、点呼確認などを行いました。並行して、一部の職員による建物の応急危険度判定活動訓練、災害時緊急出勤職員初動対応訓練も行いました。その後、役員は部局防災訓練の様子、本郷消防署のはしご車による救出訓練、東京ガスとの合

同訓練を視察しました。他の教職員は一次避難場所から山上会館前へ参集後、各災害対策班に分かれて災害対策活動訓練を行いました。山上会館内に設置された災害対策本部では、同時時間帯に訓練を実施している各部局の協力を得て、被害情報等の連絡訓練や本部教員による情報トリアージ訓練を行いました。約460名の本部教職員が参加し、全学防災体制のより一層の充実のために重要な示唆を得た訓練となりました。



CLOSE UP CTA大口径望遠鏡1号基が完成し試験運転を開始

(宇宙線研究所)



ラ・パルマ島のロケ・ムチャチョス天文台に完成した大口径望遠鏡。

超高エネルギーのガンマ線天体を観測する次世代望遠鏡であるチェレンコフ・テレスコープ・アレイ (CTA) 大口径望遠鏡1号基が、スペイン・カナリア諸島ラ・パルマ島のCTA北サイトに完成し、10月10日、日本を含む各国の関係者200人以上が出席して完成記念式典が開かれ、式典終了後、試験運転が開始されました。CTA計画は国際共同研究プロジェクトであり、ガンマ線天文学を飛躍的に推し進め、高エネルギー宇宙物理学の世界に革命をもたらすだけで

なく、天文学や素粒子物理学の幅広い分野にも大きく貢献すると見込まれています。式典では、宇宙線研究所の梶田隆章所長、CTA大口径望遠鏡研究責任者の手嶋政廣教授、羽田正理事・副学長のほか、ラ・パルマ島のAnselmo Pestana大統領、スペイン政府のPedro Duque科学大臣らが挨拶を行いました。同日夕方にはラ・パルマ市内のホテルで記念祝賀会が開かれ、CTAの設計・建設にご尽力いただいた日・独の六つの企業に、梶田所長から感謝状が贈られました。



CLOSE UP ヨット部クルーザー班が世界大会に出場

(本部学生支援課)



世界大会に臨んだ本学クルー。

8月27～31日にイタリア・ガルタ湖で開催されたヨットレースの世界選手権「J/24 WORLD CHAMPIONSHIP」に、本学運動会ヨット部クルーザー班が出場しました。J/24という種類のヨットの、各国から100艇以上が出場する大規模な大会です。本学のチームは、昨年11月に和歌山県で開催された全日本選手権U25 (25歳

以下) 部門で優勝し、今大会出場資格を得て参戦しました(結果は89位)。日本からは4チームが出場しましたが、大学チームとしての出場は本学のみでした。11月には、来年の世界選手権出場を懸けた全日本選手権が愛知県で開催されます。世界大会を経験した本学ヨット部の活躍に、より一層の期待が高まります。



CLOSE UP 高校生・受験生向けサイト「キミの東大」が誕生

(高大接続研究開発センター)



高大接続研究開発センター入試企画部門による、高校生・受験生が東京大学をもっと知るためのサイト「キミの東大 (UTokyo, your university)」が正式オープンしました。このサイトは、高校生・受験生の目線で東京大学の魅力を知ってもらうためのオンラインメディア

として、高大接続研究開発センターにて制作したものです。東大生や教員へのインタビュー、東京大学の学部教育のしくみ、学生生活のリアルな姿など、さまざまなコンテンツを掲載していきます。ぜひご覧ください。

⇒<https://kimino.ct.u-tokyo.ac.jp>

UTCC(東京大学コミュニケーションセンター)の新品が続々登場!



1 ハラール認証マークをきっかけに思いやりを考える「ハナーンチョコレート」から、ダークチョコ(カカオ70%)とミルクチョコ、それぞれの詰め合わせが新登場(各600円)。2 ちょっとした伝言に使えるそえぶみ箋は安田講堂と赤門の2種類(各450円)。3 ロングラン商品のネクタイに新たなデザインが4種登場しました(各12,000円)。4 東大のキャンパスを彩る銀杏をあしらったタオルハンカチは紺と白と淡青の3色(各800円)。その他にも続々登場予定です! ⇒<https://utcc.u-tokyo.ac.jp>



レジリエンスを高めるために

「レジリエンス」は、もともとバネの弾力・弾性を意味する物理学用語でしたが、1970～80年代頃から「逆境を跳ねかえす力」「逆境の中で適応していくプロセス」といった意味で精神医学や心理学の領域でも用いられるようになり、すでに一般にも広く知られる言葉になりました。私たちの心身の健康や幸福を考える上で鍵になる概念ではないかと思えます。

仕事のスキルを高めたり他の人から適切なサポートを得たりして、苦しい状況を変える力を持っているということは、レジリエンスの要因の一つと考えられます。身体活動などで気分転換できるならそれも良い方法です。一方、自分で状況を変えることができない場合は、状況を違う角度から眺めたりして上手に受け入れることが重要とされます。ただ、これを実行するのはなかなか難しいことです。

状況を上手に受け入れられないときは、無理にポジティブに考えようとするのではなく、不安・怒り・落ち込み・妬み・恥ずかしいといった感情が自分の中にあること、そしてそ

ういった感情と結びついている身体感覚や考え方を自分でよく見ていくことが大切だと私は考えています。この作業を通して、おそらく過去に起因していると思われる自分のパターンや自分の固定化した物の見方に気づけたときに、初めて「違う角度から」その状況を眺めることができるように感じています。

物事を適切に理解するためには「虫の目」「鳥の目」「魚の目」が重要と言われます。物事に近づいて複眼でそれを見ること、物事から距離をとって俯瞰して眺めること、そして時代や社会の変化・潮流のなかでその物事がどのように発生したかを認識すること、この三つの視点を行ったり来たりすることで理解力や問題解決力が高まるという意味ですが、これは自分自身の感情・身体感覚・思考のパターンを理解する上でも当てはまります。そしてそのプロセスのなかで、レジリエンスの中核となる要素が育っていくのではないかと思えます。

西大輔
(医学系研究科)